

しんち九条の会だより

第16号

2008/2/22

戦争は人間を悪魔にする

小川 寺島幹雄氏語る(その3)

従軍慰安婦

◆戦争は決して二度とあってはならない。

◆決して戦争を起こしてはならない。

◇従軍慰安婦とは、1930年代、中国で日本軍兵士による強姦事件が多発したため、反日感情を抑えることと性病を防ぐことなどを目的として設けられた慰安所で働か(?)された女性のことである。

元軍人や軍医などの話では、開設当初から約8割が朝鮮人女性だったといわれ、太平洋戦争に入ると、主として朝鮮人女性を挺身(ていしん)隊の名で強制的に連行したともいわれている。

◇慰安所の多くは民間業者により経営されていたと思われるが、旧日本軍が直接慰安所を経営したケースもあったようである。また民間業者が経営した場合でも、旧日本軍がその開設に許可を与えたり、慰安所の施設を整備したり、慰安所の利用時間、利用料金や利用に際しての注意事項などを定めた慰安所規定を作成するなど、旧日本軍が慰安所の設置や管理に直接関与したことは間違いのないようである。

◇慰安婦の管理については、旧日本軍は、慰安婦や慰安所の衛生管理のために、慰安所規定を設けて利用者に避妊具使用を義務付けたり、軍医が定期的に慰安婦の性病等の病気の検査などを行っていた。また、これらのことについては、避妊具(コンドーム)の洗浄が最も悲しく辛かったという元慰安婦の証言もある。

慰安婦達は、戦地においては常時軍の管理下にあり、軍と共に行動させられ、自由も何もない辛い生活を強いられていたと思われる。

◇慰安婦の募集は、軍当局の要請を受けた経営者の依頼により斡旋業者らがこれに当たったようだが、戦争の拡大とともに人員の確保も難かしくなり、業者らは半ば強制的な形で本人の意向に反して集めるケースも数多くあったようで、中には、官憲等が直接これに加担するケースもあったと言われている。

◇慰安婦の輸送に関しては、業者が慰安婦等の婦女子を船舶等で輸送するに際し、旧日本軍は彼女らを特別に軍属に準じた扱いにするなどして渡航申請に許可を与えたり、また、軍の船舶や車両によって戦地に運ばれたケースも少なからずあったという。

(次号につづく)

日本国憲法

第9条

①日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。



②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。

ポツダム会談

昭和20年7月17日から、ドイツのベルリン郊外ポツダムで開かれたアメリカ合衆国のルーズベルト、イギリスのチャーチル(途中からアトリー)、ソ連のスターリンの会談。日本の無条件降伏を要求する「ポツダム宣言」は7月26日に発せられた。



ユートピア

しんち九条の会代表 目黒 美津英

◇・・立春が過ぎてもまだまだ寒さが去りませんが、春が近づく予感が高まってきました。2月は日数が少ないことから「逃げる月」といわれているように、今月も足早に過ぎてゆきます。

◇・・年明け早々、株価の下落に続き、中国のギョウザの問題は大きな衝撃を与えました。

生命を養う大事な食料を輸入に頼り、自給率が年毎に下がってきました。

◇・・さらに、冷凍食品への依存率がエスカレートし、食の安全への配慮がすっかり失われています。生命を守る食料の安全を、見た目のきれいさだけで決めるというきわめて危うい食生活になってしまいました。

◇・・そもそも、日本人の私達の食料をなぜ自国でなく、外国に依存しなければならないのか、これが最大の問題で、今回の事件は、このことに対する警鐘として、厳しく受け止めるべきと思います。

◇・・2月6日の朝日新聞に、世界の武器輸出の状況がでていました。それによると「英国国際戦略研究所は、5日、世界の軍事情勢に関する年次報告書、06年の各国の武器輸出は、米国が約140億ドル(約1兆5千億円)で、世界の武器輸出市場の51.9%。次いでロシア58億ドル、英国33億ドル、ドイツ10億ドル、中国7億ドルとなっている」ということです。

◇・・大国は、表面で平和を叫んでも、その一方で年々優秀な武器を作り輸出することを行っています。こうした事実がわが国の憲法改正の後ろ盾になっていないかという思いが胸の底に深く残りました。



児童虐待 なぜ?

新聞報道によると、昨年1年間に全国の警察が摘発した児童虐待事件は300件、被害者は315人にのぼるということでした。また、虐待により死亡した児童も37人おり、何か背筋の寒くなる思いがします。しかも、被害者の年齢では1歳未満が最も多いということですが、なぜこのような事件が起るのでしょうか。

昔から「子供が可愛くない親はいない」と言われていますが、以前は、親はたとえ怖くても、殴られても親の愛情が子供に伝わってきたと思います。親のひたむきな愛情がいつまでも子供たちに注がれるような、そんな世の中でありたいものです。

新地町の文化財

新地城跡(養首城跡)

新地城跡は、JR常磐線新地駅の西方およそ2kmの山に作られた城で、永禄年間(1558~1570)に相馬氏によって建てられました。

当時の新地町内は、中村城から攻める相馬氏と宮城県から攻める伊達氏との戦場となっていました。伊達氏と相馬氏は何度も新地で戦いましたが、天正17年(1589)5月20日、伊達政宗の軍勢が新地城を取り囲み、鉄砲での総攻撃をかけたきました。守る相馬氏は劣勢に立たされ、人質をだして城を開くことにしましたが、城内で火事が起ったりして新地城は伊達氏の城となりました。その後も相馬氏が何度も新地城を攻撃しましたが、落とすことはできませんでした。

寛永5年(1628)に亙理の伊達成実(しげざね)が新地を治めることになり、もともと平地にあった谷地小屋要害(ようがい)修理して代官を置いたので新地城は使われなくなりました。新地城は戦争の時に使われたため、攻撃したり守ったりするのに便利な形をしていました。真ん中の本丸をお堀が囲み、城に登る道は曲がりくねって、ところどころで細くなっており、雨の時にかぶる養の首に似ていることから養首城とも呼ばれています。「新地町の文化財」(新地町教育委員会発行)より